

埋蔵文化財発掘調査の状況について（6月末現在）

校舎敷地の北・南の2箇所が発掘調査を実施中で、現在は中世末期から江戸時代初頭頃の遺構調査を行っています。

調査地は、関白秀吉が京都改造を行った際、京中の寺院を集めた寺町に該当し、現在検出されている遺構・遺物はこれらの寺院に関するものと考えられます。

また、出土遺物中に焼けた瓦が多数みられることから、宝永5年（1708）の大火や、天明8年（1788）の大火などによる火災により、寺院が焼亡したのと考えられます。

この中世末期から江戸時代初頭頃の遺構調査を終了した後、さらに深い層にある平安時代の遺構調査を実施する予定です。



校舎敷地内南側 1



校舎敷地内北側



校舎敷地内南側 2



校舎敷地内南側 3